

奨励賞

中小企業区分

新日本カレンダー株式会社

※事業者の情報は応募時点(2018年)

所在地	大阪府大阪市東成区中道3丁目8番11号
業種	製造業
社員数	185名(単体)、223名(連結)
受賞歴	2016 奨励賞
ウェブサイト	https://www.nkcalendar.co.jp/

一人ひとりが主役の環境活動

取組の目的

環境活動を通して、環境負荷の低減はもちろんですが、何事にも当事者意識を持って動くことができる人材の育成を目的としています。一人ひとりが会社の現状・業績に当事者意識を持ち、何ができるかを考えることで業務改善に努めています。その一環として、6年前より「社内提案制度」を全社員が参加して実施し、社員から出された業務改善やコストカットの提案が多く実現しました。

また、本年より新規事業開発室を立上げ、将来の柱となる事業や商品の開発、既に販売しているエコ骨使用の団扇やカーボンオフセットカレンダー、再生紙使用カレンダーに加え、新たなエコ商材の開発も行っています。

これらのことを通して、業務改善により残業時間が削減され電気使用量や電気代の削減、資材の使用量減少(例えば緩衝剤の使用量減)など、環境負荷の低減だけでなく、経費削減を通して事業活動へも貢献ができております。

取組の実績

環境教育として、本社の全従業員を対象に「環境活動発表会」を年に1度実施をしています(本年は6月中旬)。当社が取得しているエコアクション21の運用プロジェクトメンバーと環境管理事務局で会の企画・運営を行い、全員が参加できるよう4回に分けて実施をしています。時間は参加者が負担に感じないように、1時間で行っています。

発表会の内容は、前年の数値実績(電気やガソリンなどの使用量や料金)報告が主ですが、今年から料金面の結果も発表をし「活動をすることで経費の削減にも繋がる」という案内をするようにしました。また、動画を使用し、社内によくある悪い例を紹介し、注意喚起を促

「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

しています（トイレのフタが開けっ放し、商談スペースの使用後に電気がつけっ放し等）。動画以外では、エレベーターの使用を控えてもらうために、「電気使用の削減のために使用を控える」ではなく、「エレベーター使用を控え、階段を使用することで健康面に良い。〇〇カロリー消費になる」という呼びかけを行い、楽しく環境活動に取り組んでいただく発表を心がけています。

●こんな場面、ありませんか？②



「環境活動発表会」における注意喚起の一例

●トイレのフタについて

- 節電効果
⇒保温機能付き便座 1 台のふたをきちんと閉めることで、年間で**40.15kWh**の削減！
本社には18台あるので、年間で**722.7kWh**の削減！
(4人家庭の電気使用量 約39日分に相当)
※夏場は保温機能OFFのため、実際はこれ以上！



また、一方的に発表するだけでなく、日頃の環境活動や活動の成果に関連したクイズを実施し、参加者が楽しく学べる工夫をしています。

この発表会を通して、日頃の活動の振り返りはもちろん、日常業務の中でどれだけのエネルギーを使用しているか、また活動に取り組むことで、どれだけ負荷を低減し料金を削減することができるのかなど、環境活動を通して経費の削減もできるということを改めて理解してもらおう場となっております。

Q.1 新電力への変更などで、電気代は以前に比べて低くなってきましたが、電気使用量は、この数年増加を続けています。では、2017年の電気代はいくらだったでしょうか。

電気代を抑えるために、昨年はプラン変更を行いました。前年比で 〇 万円の増加となりました。

① 〇 円

② 〇 円 ←②は2016年の電気代

③ 〇 円



日頃の環境活動や活動の成果に関連したクイズの例

Q.9 2018年の4月・5月の電気使用量は前年の同時期と比べてどうなっているでしょうか？

①前年より多い

②前年より少ない

③前年とほぼ同じ

前年比で**1,337kWh**減少。
1,337kWhとは、一般家庭のエアコンを約400時間使用した場合の量に相当します。この状態を維持できるよう、今後も電気使用量削減にご協力をお願い致します。

外部のものですが、東京商工会議所主催のエコ検定の受験を全拠点で 10 年近く推進しており、毎年 10 数名が受験しています。累計の合格者数は本年で 150 名となりました。

成果・課題

活動発表会への参加者は4日間で144名。4日間で参加できなかった者への開催で7名。カスタマーセンターのアルバイト勉強会内で実施したもので26名の合計177名の参加でした。運営側が8名のため、合計で185名。6月末時点の本社全従業員が参加しました。当日のアンケートを見ると、「動画などで分かりやすく説明していただいて良かった、動画は頭によく入り分かりやすかった」という声があり、今回初めて使用した動画の効果があったように思えました。また、社外の環境活動について「私も参加したい」という声が複数あり、社内で興味を持っている人がいることも分かったので、今までプロジェクトメンバーのみの案内だったものを、幅広く案内してみようと思っています。

数字を見ると、一番効果があったものでエレベーターの使用は6月・7月・8月と3ヵ月続けて前年比で使用率が約15%削減できました。水道も無駄遣いの注意喚起を会の中で案内していましたが、6~8月で前年比5%減となりました。

「環境活動の効果で経費削減にも繋がる」という新しい発表の形を今年から試してみた結果、上記の様な意見も含め概ね好評であり、効果も見られましたが、「場所によっては会社の冷房設定温度では暑い・エレベーターは使用している人を最近よく見かけるので、もっと強く案内してほしい」など、今後の環境活動を進めるうえで「どのような案内が最適か、今設定していることをどのように見直すか」など課題が見つかりました。

今後の改善

発表会の振り返りをメンバーと事務局で行い、開催時期・回数については、「6月に行うことで、冷房使用が本格化する前に注意喚起ができる」「開催回数が複数あることで、選択肢が増え欠席率が少なくなる」と言った意見が出たため、今年と同様で問題が無いという結論に至りました。動画についても、分かりやすく好評であったことを踏まえ、事例をあげながら「他人事ではなく自分もやっているかも」という当事者意識を持ってもらうために、しっかりと活用していく流れになりました。

エレベーター使用も含めた今後の案内については、該当部署が絞られていることもあり、その部署を中心に朝礼等でこまめに呼びかけていくこととなりました。特に、アルバイトが多いカスタマーセンターでは、引き続き勉強会等で環境活動の紹介時間も設けて、継続的に呼びかけていかなければなりません。

例年、1回の発表会で呼びかけて、その後が続くことがなかなか出来ていませんでしたが、今年はエコアクション21の審査後や内部監査など、イベント後に定期的に呼びかけていくことで、活動発表会後の効果を継続できるよう動いています。今後も、ウォームビズのスタートに伴う暖房設定や、年末の大掃除前にごみの分別を呼び掛けますが、その際に+αで日頃の環境活動を振り返ってもらえるよう、環境活動の担当者が進めていく予定です。

関連補足情報

1.新日本カレンダー株式会社 環境への取り組み

<https://www.nkcalendar.co.jp/ecology/index.html>

2.新日本カレンダー株式会社 2017 年度環境経営レポート

(本社・東京支店・名古屋支店・九州支店・丸亀商品センター)

https://www.nkcalendar.co.jp/img/ecology/pdf/env_report_7514_2017.pdf

審査委員会からの講評

本社の全社員を対象として「環境活動発表会」を年 1 回実施していることや独自で作成したクイズを実施していること等の環境活動とその成果についての理解を深める取り組みをしていることは環境教育プログラムとして高く評価できる。エコアクション21や eco 検定を活用していることも環境意識の啓発として評価できる。

環境活動の効果が経費削減につながるという視点から発表をすることで、事業活動と環境活動との関連性を意識した環境保全行動へと結びつける工夫をしていることも優れている。

しかし、環境教育プログラムが本業との関連性を意識した形ではなく、日常的な活動が中心である点、成果を評価する取り組みがなされていないことにはまだ改善の余地がある。